

学生海外調査研究	
明治期における日独通商・外交の研究	
氏名 松居 宏枝	比較社会文化学専攻
期間	2016 年 12 月 12 日～2016 年 12 月 29 日
場所	ドイツ連邦共和国(ベルリン、ハンブルク、キール)
施設	ベルリン自由大学、ドイツ外務省政治文書室、ドイツ連邦文書館ベルリン、ベルリン州立図書館、ハンブルク州立図書館、シュレースビヒ＝ホルシュタイン州立図書館、エッケルンフェルデ博物館

内容報告

1. はじめに

執筆者の研究における、本調査の位置づけについて述べておきたい。執筆者は、19 世紀後半における日本とドイツの外交、通商関係を明らかにすることをめざして研究を行っている。そして、今回中心となる調査課題は次の三点である。第一点目は、博士論文の第 3、4、5 章で利用するドイツ連邦共和国シュレースビヒ＝ホルシュタイン州立図書館所蔵の“Der japanische Nachlaß Lorenz von Steins”(以下、「日本関係シュタイン文書」)の調査である。第二点目は、博士論文の補論となる、鉄道資材購入をめぐる対独外交についての調査。そして第三点目は、現在次の課題と考えている、ドイツ商会・商人の日本における活動についての予備調査である。上記三点の調査の目的、意義(2.1)、調査方法(2.2)、調査成果(3)については項目を立て、そこで詳細にする。

2. 研究概要

2.1 調査の目的、意義

2.1.1 「日本関係シュタイン文書」について

博士論文では特に、ローレンツ・フォン・シュタインに着目し、シュタインと明治政府の関係について、外交的側面からアプローチしている。その方法によって、日本人がなぜシュタインを必要とし、彼の学説をどのように理解し受容したのか、日本とドイツ、オーストリアなどの史料を使用して考察を行ってきた。

博士論文に利用する、シュタインに関する史料の収集、分析は完了している。その中心の一つをなしているのが、シュタインに宛てた日本人の書簡「日本関係シュタイン文書」である。執筆者は、平成 22 年度お茶の水女子大学「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」プロジェクト「学生海外派遣」プログラムの援助によって、ドイツ連邦共和国シュレースビヒ＝ホルシュタイン州立図書館所蔵の「日本関係シュタイン文書」の閲覧および複写の機会を得た。当該史料はこれまでも多くの研究者が閲覧し、利用している¹。またその史料の一部は、複製として国立国会図書館憲政資料室に「シュタイン関係文書」として所蔵されている。このように、一部翻刻した史料や複製を利用することは可能であるが、現文書を閲覧できたことは非常に有益であった。

その後、全体的に翻刻を行った柴田隆行編集・判読『ローレンツ・フォン・シュタインと日本人との往復書翰集』が出され、執筆者の研究は各段に進んだ。しかしながら、手書き文書の書き起こし作業から生じる誤記や誤読、また執筆者の前回の調査で未調査の点もあり、同史料を再見し、異同を正す必要があった。そこで同史料の再調査を、本調査での目的の一つとした。

2.1.2 鉄道資材購入をめぐる対独外交について

本調査の課題の一つ、鉄道資材購入をめぐる対独交渉について解明する手がかりとして、ドイツの日本関係外交文書に着目している。

19 世紀後半の日本とドイツの通商関係については、研究的に空白の部分が多い。執筆者が進めているドイツからの鉄道資材購入問題についても、日本とイギリスとの外交・経済研究の中で、イギリスの外交文書に表出するドイツ側の行動が指摘されるに過ぎなかった。これらは偏に、日本における諸外国の日本関係外交文書の公開状況とも大きくかかわっている。例えば、アメリカ、イギリス、フラ

ンスの日本関係外交文書の中心的なものは、現在日本で閲覧が可能である²。一方、ドイツの外交文書は、戦前に今宮新氏が収集した東京大学史料編纂所蔵、通称「今宮新氏探訪日独外交関係文書」において、幕末期の史料の一部をみることができるとどまっている。これらの理由としては、ドイツの外交文書の史料公開状況が関係している。

第二次世界大戦後、ドイツ外務省の各局史料は東西両陣営によってそれぞれ接収された。東西ドイツに返還後も両国の分断によってその所蔵先も分断されたままであった。東西ドイツ統一後、その公開状況がさらに再編され、近年になりようやく史料利用の便が向上した。そうした意味でも、日独外交・通商関係研究においてドイツ側の史料を利用した研究を行うことは、日本やイギリスの外交文書を中心に進められてきた研究に新しい視点をもたらすことが可能となる。ドイツの外交文書の調査、収集、研究に関しては、五百旗頭薫氏らによって、科研費基盤研究(B)「ドイツにおける対日外交文書の収集と利用可能性」(2013～2015年度)としてすすめられている。その成果の一部として、執筆者は2016年3月に「1880年代後半の対独政策—九州鉄道株式会社資材購入を中心に—」と題した報告を行っている。

執筆者は、研究を発展させるためにも、ドイツの外交文書の調査を継続する必要がある。

2.1.3 日本におけるドイツ商会・商人について

イリス商会(クニフラー商会)は日本で創業し、後にハンブルクに本社をうつした。創業者の一人であるギルデマイスターの書簡を中心に、その動向を明らかにした生熊文編訳『ギルデマイスターの手紙』はドイツ語史料を使用し、研究上の大きな画期となった。その後、向井晃「イリス商会」、笠井雅直「研究ノート 幕末・維新时期におけるクニフラー商会の貿易活動」が出された。これらは主に、イリス商会の社史を参考にしている。イリスの社史は、これまで創業100周年と150周年を記念してそれぞれ出された。100周年には、Käthe Molsen: *C. Illies & Co. 1859-1959*とその邦訳である、イリス商会『イリス商会創業百年史』があり、150周年には、Johannes Bähr, Jörg Lesczenski, Katja Schmidtpott: *Handel ist Wandel*が出版された。

ハンブルクのイリス商会の本社の史料を利用しているのは、管見の限り、2009年に出版された150周年社史と、橘川武郎「日本の近代化とドイツ商人」、そして、展示カタログ「イリス150周年近代日本と共に歩み続ける或るドイツ商社の歴史展」である。

また、イリス商会以外の商会については、ディルク＝ファン＝デア＝ラーン「幕末・明治期の横浜のドイツ商社」において、その概要が示されている。一説によれば、ドイツ系商会は、1898(明治31)年には、神戸と横浜を合わせて約40社が存在したと言われている³。

イリス商会以外で研究が進展してきているのは、アーレンス商会である。工芸・美術品輸出入会社としてのアーレンス商会に着目した最近の研究に、今井祐子『陶芸のジャポニスム』がある。

以上の点から、19世紀後半日本で展開したドイツ系商人の活動については不明な点が多く、研究の余地があると言える。また、イリス商会のように日本で創業し、のちにドイツに本社を移した企業が史料を有している可能性が高い。そして、その他の企業や商業団体についても未見の社史や研究が存在していると考えられる。そのため、ドイツ系商会が日本でどのような事業を展開したのかその実態を探るためにも、ドイツにおける企業側の史料や商業団体について手がかりを得る必要がある。

2.2 調査方法

2.2.1 「日本関係シュタイン文書」について

シュレースビヒ＝ホルシュタイン州立図書館所蔵の「日本関係シュタイン文書」を閲覧し、語句の異同を修正した。閲覧に際しては、日本よりメールにて申請を行った。

2.2.2 鉄道資材購入をめぐる対独外交について

ドイツからの鉄道資材の購入については、現在のところドイツの日本関係外交文書がもっとも有用である。その移管状況については、*A catalogue of files and microfilms of the German Foreign Ministry archives 1867-1920*⁵に詳しい。そして現在、ドイツで日本関係外交史料を所蔵している主だった館は、ベルリンにあるドイツ外務省政治文書室、プロイセン枢密文書館、ドイツ連邦文書館ベルリン⁴の三館である。政治文書館には、1867年以降のドイツ帝国外務省政治局の史料、個人文書、駐日領事史料などがあり、プロイセン枢密文書館には1867年以前のプロイセン時代の史料がある。そして、ドイツ連邦文書館ベルリンには、1867年以降のドイツ帝国外務省通商政策局、法務局、管理局史料が所蔵されている。所蔵先が分かれていることには、戦後の東西分裂とその際の史料接収、そして東西統一が影響した。そのため、それらの史料の移管が終了し、データベースが作られたのは近年の出来事である。

こうしたことから、ドイツの日本関係外交文書が利用できるようになった今、これらの史料を使用して研究を行うことは、非常に重要である。今回は、ドイツ連邦文書館に加え、外務省政治文書室

の史料調査を中心に行った。

2.2.3 日本におけるドイツ商会・商人について

ドイツにおいて、19 世紀後半に日本で事業を展開した企業について調査するため、現在も事業を継続している C. Illies & Co.(イリス商会)、Simon, Evers & Co. GmbH(シモン・エバース商会)へ、企業史料の情報を得るためのアポイントを申し込んだ。

また、イリス商会の 150 周年社史を執筆した、ベルリン自由大学 Katja Schmidtpott 教授に面会し、ドイツ系商会の企業史料へのアプローチに方法について御教授いただくとともに、情報提供をお願いした。

3. 調査成果

3.1 日本関係シュタイン文書について

「日本関係シュタイン文書」の調査は、語句の異同を修正することができ、充実した内容となった。また、シュタインの故郷のエッケルンフェルデ博物館において、シュレースビヒ＝ホルシュタイン州立図書館所蔵資料によって構成されるシュタインに関する常設展示を観ることができた。文字史料のみでは得られない、その土地の雰囲気を経験できたことは、貴重であった。

3.2 鉄道資料購入をめぐる対独外交について

今回の調査では、これまで閲覧・収集してきた史料に加え、外務省政治文書室で日本の鉄道に関する簿冊を発見した。これは、日本の鉄道資料の発注先はイギリスが中心であった中で、なぜドイツへの発注に切り替わったのか、そしてドイツへ発注したのはどのような経緯であったのか、などを明らかにすることができる重要な史料群であった。今回、史料を閲覧、複写することができた。ここでの成果をもとに、現在『鉄道史学』への投稿論文を準備している。

3.3 日本におけるドイツ商会・商人について

調査に際し、日本から C. Illies & Co., Simon, Evers & Co. GmbH へ、メールにてアポイントを取ったがいずれも返答を得られなかった。そこで執筆者は、イリス商会の 150 年社史を執筆したベルリン自由大学のシュミットポット教授に面会し、史料についての情報を得た。ここでその内容は詳しくはないが、シュミットポット教授の情報は、今後の執筆者の研究にとって非常に有益な情報であり、貴重な情報提供をいただいた。

企業史料に直接アプローチする以外の方法として、その他のドイツ系商会についての社史や研究を閲覧、収集する調査を行った。その結果、ベルリン州立図書館とハンブルク州立図書館において、シモン・エバース商会の社史やハンザ都市商人の東アジアでの活動についての研究論文などを得ることができた。これらからは、ハンザ都市ブレーメン、およびハンブルクの商人がどのように日本へ渡り事業を展開したのかということについての新しい情報が得られた。また、商人同士のネットワークや、についても多くの知見が得られた。

さまざまな事情から、ドイツ系商会の企業史料を閲覧することが難しいとしても、これまで研究されていないドイツ系商会についてドイツ側の文献を調査することや、外交文書を中心とする公文書を研究することは非常に有意義であることが分かった。また、日本におけるドイツ系商会は、ドイツのクルップなどの機械製造会社や化学薬品会社などの代理店として活動しており、それら本会社は現在も企業史料室を有している場合があり、本会社史料からのアプローチも今後行っていきたい。

4. まとめと展望

本調査で得られた知見は、博士論文を詳細にするだけではなく、その後の研究内容を展望できるものとなった。また、鉄道に関しては、近日中に『鉄道史学』へ投稿する予定があり、重要な史料を得ることができた。ドイツ系商会の調査では、博士論文と今後の研究課題とを接続するに十分な予備調査を行うことができた。また、ベルリン自由大学のシュミットポット教授との面会によって、史料情報を得たばかりでなく、今後の研究交流についても発展的な議論を交わすことができた。

また、キールのシュレースビヒ＝ホルシュタイン州立図書館で、「日本関係シュタイン文書」を閲覧中に、地元ラジオのインタビューを受けた。日本からシュタイン文書を閲覧に来た者として、その図書館の重要性について話し、後日放送されるという僥倖にも恵まれた。

今回の調査は、ドイツの史料を使用して研究を行う執筆者の研究にとって、なくてはならないものであり新史料の発見にも恵まれた。そしてその成果は、調査に基づく論考として、近く公表する予定も伴っている。こうした物質的な成果のみならず、シュミットポット教授やシュレースビヒ＝ホルシュタイン州立図書館のマンスケ氏など、活躍する女性研究者、アーキビストとの面会できたことは、執筆者に大きな刺激となった。そうした点からも、国際的な女性リーダーの育成に関わる本調査研究の目的は、達成されたといえる。今後は、本調査で得られた人とのつながりや、史料、情報をもとに

研究をさらに発展させていきたいと考える。

5. 謝辞

本調査の遂行にあたっては、お茶の水女子大学文部科学省特別経費「グローバル女性リーダー育成カリキュラムに基づく教育実践と新たな女性リーダーシップ論の発信」プロジェクト「学生海外派遣」プログラムの援助をいただきました。大変貴重なご支援を賜りましたこと、ここに記し御礼申し上げます。

また、今回貴重な情報をいただきましたベルリン自由大学の Frau Prof. Dr. Katja Schmidtpott、史料の便宜をはかってくださったシュレースビヒ＝ホルシュタイン州立図書館の Frau Dr. Maike Manske と Herr Dr. Ahlers、そしてご指導いただいております小風秀雅教授、新井由紀夫教授にこそより御礼申し上げます。

注

- 色川大吉『新編明治精神史』中央公論社、1973
萩原延寿『日本の名著第35巻 陸奥宗光』中央公論社、1973
Boockmann, Andrea: *Lorenz von Stein(1815-1890). Nachlaß, Bibliothek, Biographie*. In: Berichte und Beiträge der Schleswig-Holsteinischen Landesbibliothek, Kiel 1980.
Taschke, Heinz: *Der Nachlass Lorenz von Stein's in Kiel*. In: Zugleich ein Beitrag zur Wissenschaftsbiographie. Der Staat. Vol. 21, No. 2 (1982), S. 258-276.
早島瑛「ローレンツ・フォン・シュタインと明治憲法の制定」(関西学院大学『商學論究』 27(1/2/3/4), 1980)
同、「ローレンツ・フォン・シュタインに宛てた福沢諭吉書簡について」(近代日本研究会編『年報・近代日本研究』、山川出版社、1980)
水田 洋「須多因先生——マルクスの先駆者で伊藤博文の顧問」、「須多因先生後記——キールのシュタイン文書」(『知の風景』、筑摩書房、1988)
Zöllner, Reinhard: „Appreciating critic“ *Lorenz von Steins Japan-Korrespondenz Auswahl und Kommentar*. In: NOAG(Hamburg), 147-148(1990), S. 9-71.
-----: *Lorenz von Stein in Japan*. In: (Hrsg.) Albert von Matius, Akademischer Festakt zum 100. Todestag. Heidelberg: v. Decker's, 1992.
-----: *Die „Steinschen Schriften“ des Kawashima Siun(Jun)*. In: (Hrsg.) Brauneder/Nishiyama, Lorenz von Steins „Bemerkungen über Verfassung und Verwaltung“ von 1898 zu den Verfassungsarbeiten in Japan, Frankfurt a.M 1992, S.61-67.
柴田隆行「ローレンツ・シュタイン文書について」(『社会思想の窓』NO.100、「社会思想の窓」刊行会、1992)
Nawrocki, Johann: *Der japanische Nachlaß Lorenz von Steins*. In: Oriens Extremus , Vol. 36, No. 1 (1993), S. 83-113.
市村由喜子「ローレンツ・フォン・シュタイン日本関係文書について」(山住正己編『文化と教育をつなぐ』、国土社、1994)
Schenck, Paul-Christian: *Der deutsche Anteil an der Gestaltung des modernen japanischen Rechts- und Verfassungswesens*. Franz Steiner Verlag Stuttgart, 1997.
Takii Kazuhiro(Hrsg.): *Lorenz von Steins arbeiten für Japan*. Frankfurt am Main : Berlin, Peter Lang, 1998.
瀧井一博『ドイツ国家学と明治国制—シュタイン国家学の軌跡—』ミネルヴァ書房、1999
Taschke, Heinz: *Lorenz von Stein und Japan*. In: Quellen zur Verfassungs- und Verwaltungsgeschichte Nr.21, Lorenz von Stein Institute für Verwaltungswissenschaften an der Christian Albrechts Universität zu Kiel, 2005.
Takii Kazuhiro: *The Meiji Constitution*. In: The Japanese Experience of the West and the Shaping of Modern State. International House of Japan, 2007.
執筆者の調査以降は、柴田隆行編集・判読「ローレンツ・フォン・シュタインと日本人との往復書翰集」2011や、市村由喜子「ローレンツ・フォン・シュタイン日本関係文書研究の課題：エルンスト・フォン・シュタイン文書と関連して」(大東文化大学大学院文学研究科教育学専攻『教育学研究紀要』 (2), 1-14, 2011)、Takii Kazuhiro: Savigny's Nähe und Savigny's Kritik.-Entstehung und Tragweite der Staatswissenschaft Lorenz von Stein. In: Stefan Koslowski(Hrsg.): *Lorenz von Stein und der Sozialstaat*. Baden-Baden, Nomos, 2014. が出されている。
2. 例えば、横浜開港資料館所蔵のアメリカ、イギリス、フランス、中国の外交文書の複製本、国立国会図書館憲政資料室所蔵のイギリス外交文書 FO46、東京大学史料編纂所所蔵の「日本関係海外史料マイクロフィルム」などがある。

3. カティヤ・シュミットポット「第一次大戦以前の独日貿易」(日独交流史編集委員会編『日独交流 150 年の軌跡』雄松堂書店、2013、49 頁)
4. ドイツ連邦文書館にはほかに、写真映像を中心に所蔵しているコブレンツ館と、軍事関係史料を所蔵しているフライブルク館を持っている。ドイツ連邦文書館ベルリンには、外交文書のほか、大蔵省、帝国官房、植民地省、帝国議会関係や DDR、諸政党の史料が所蔵されている。
5. American Historical Association. Committee for the Study of War Documents.: *A catalogue of files and microfilms of the German Foreign Ministry archives 1867-1920*. [Washington] 1959.

参考文献

- 生熊文編訳『ギルデマイスターの手紙ードイツ商人と幕末の日本』有隣堂、1991
- 市村由喜子「ローレンツ・フォン・シュタイン日本関係文書について」(山住正己編『文化と教育をつなぐ』、国土社、1994)
- 市村由喜子「ローレンツ・フォン・シュタイン日本関係文書研究の課題：エルンスト・フォン・シュタイン文書と関連して」(大東文化大学大学院文学研究科教育学専攻『教育学研究紀要』(2)、1-14、2011)
- 今井祐子『陶芸のジャポニスム』名古屋大学出版会、2016
- イリス商会編『イリス商会創業百年史ー日独貿易史に対する一寄与』(社史でみる日本経済史、第 71 巻、ゆまに書房、1960 初版 2014 復刻)
- 色川大吉『新編明治精神史』中央公論社、1973
- 笠井雅直「研究ノート 幕末・維新期におけるクニフラー商会の貿易活動ードイツ・イリス商会前史ー」(『商学論集』第 62 巻第 1 号、1993)
- カティヤ・シュミットポット「第一次大戦以前の独日貿易」(日独交流史編集委員会編『日独交流 150 年の軌跡』雄松堂書店、2013)
- 橘川武郎「日本の近代化とドイツ商人ー日本で生まれたドイツ商社＝イリス商会の幕末・明治期における事業展開」(『一橋商学論叢』Vol.4, No.2, 2009, pp.2-21)
- 柴田隆行「ローレンツ・シュタイン文書について」(『社会思想の窓』NO.100、「社会思想の窓」刊行会、1992)
- 柴田隆行編集・判読「ローレンツ・フォン・シュタインと日本人との往復書翰集」2011
- 鈴木楠緒子『ドイツ帝国の成立と東アジアー遅れてきたプロイセンによる「開国」ー』ミネルヴァ書房、2012
- 瀧井一博『ドイツ国家学と明治国制ーシュタイン国家学の軌跡ー』ミネルヴァ書房、1999
- ディルク＝ファン＝デア＝ラーン「幕末・明治期の横浜のドイツ商社」(『横浜居留地と異文化交流ー19 世紀後半の国際都市を読むー』山川出版社、1996)
- 萩原延寿『日本の名著第 35 巻 陸奥宗光』中央公論社、1973
- 早島瑛「ローレンツ・フォン・シュタインと明治憲法の制定」(関西学院大学『商学論究』27(1/2/3/4)、1980)
- 同、「ローレンツ・フォン・シュタインに宛てた福沢諭吉書簡について」(近代日本研究会編『年報・近代日本研究』、山川出版社、1980)
- 福岡万里子『プロイセン東アジア遠征と幕末外交』東京大学出版会、2013
- 水田 洋「須多因先生ーマルクスの先駆者で伊藤博文の顧問」、「須多因先生後記ーキールのシュタイン文書」(『知の風景』、筑摩書房、1988)
- 向井昇「イリス商会」(横浜居留地研究会編『横浜居留地の諸相』横浜開港資料館、1989)
- 展示カタログ「イリス 150 周年近代日本と共に歩み続ける或るドイツ商社の歴史展」(横浜美術館、2009)
- American Historical Association. Committee for the Study of War Documents (pub.): *A catalogue of files and microfilms of the German Foreign Ministry archives 1867-1920*. [Washington] 1959.
- Boockmann, Andrea: *Lorenz von Stein (1815-1890). Nachlaß, Bibliothek, Biographie*. Berichte und Beiträge der Schleswig-Holsteinischen Landesbibliothek, Kiel: Schleswig-Holsteinische Landesbibliothek, 1980.
- Bähr, Johannes, Jörg Lesczenski und Katja Schmidtpott: *Handel ist Wandel: 150 Jahre C. Illies & Co*. München: Piper, 2009.
- Mathias-Pauer, Regine und Erich Pauer: *Die Hansestädte und Japan, 1855-1867*. Marburg: Förderverein Marburger Japan Reihe, 1992.
- Molsen, Käthe: *C. Illies & Co. 1859-1959: Ein Beitrag zur Geschichte des deutsch-japanischen Handel*. Hamburg: Merkur, 1959.
- Nawrocki, Johann: „Der japanische Nachlaß Lorenz von Steins“. In: *Oriens Extremus*, Vol. 36, No. 1 (1993), S. 83-113.
- Schenk, Paul-Christian: *Der deutsche Anteil an der Gestaltung des modernen japanischen Rechts- und Verfassungswesens*. Stuttgart: Franz Steiner Verlag, 1997.
- Takii Kazuhiro (Hrsg.): *Lorenz von Steins Arbeiten für Japan*. Frankfurt am Main, Berlin: Peter Lang, 1998.

- : *The Meiji Constitution: The Japanese Experience of the West and the Shaping of Modern State*. Tokyo: International House of Japan, 2007.
- : „Savigny nahe und Savignykritik: Entstehung und Tragweite der Staatswissenschaft Lorenz von Steins“. In: Stefan Koslowski (Hrsg.): *Lorenz von Stein und der Sozialstaat*. Baden-Baden: Nomos, 2014, S.42-63.
- Taschke, Heinz: „Der Nachlass Lorenz von Stein's in Kiel: Zugleich ein Beitrag zur Wissenschaftsbiographie“. In: *Der Staat*. Vol. 21, No. 2 (1982), S. 258-276.
- Taschke, Heinz: *Lorenz von Stein und Japan*. Quellen zur Verfassungs- und Verwaltungsgeschichte Nr. 21, Lorenz von Stein Institut für Verwaltungswissenschaften an der Christian Albrechts Universität zu Kiel, 2005.
- Zöllner, Reinhard: „'Appreciating critic' Lorenz von Steins Japan-Korrespondenz Auswahl und Kommentar“. In: *NOAG* (Hamburg), 147-148 (1990), S. 9-71.
- : „Lorenz von Stein in Japan“. In: Mutius, Albert v. (Hrsg.): *Lorenz von Stein (1890-1990): Akademischer Festakt zum 100. Todestag*. Heidelberg: v. Decker's, 1992.
- : „Die ‚Steinschen Schriften‘ des Kawashima Siun(Jun)“. In: Brauner Wilhelm und Kaname Nishiyama (Hrsg.): *Lorenz von Steins „Bemerkungen über Verfassung und Verwaltung“ von 1898 zu den Verfassungsarbeiten in Japan*. Frankfurt a.M: Peter Lang, 1992, S.61-67.

まつい ひろえ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

指導教員によるコメント

本研究調査は、これまでの明治期日独関係研究における問題点、すなわち、日本側の史料によるところが大きく、いまだ史料的空白が多く存在している、という点について、日本側の史料からは得られない情報がドイツ側の史料から得られるという点を埋める可能性を秘めたものとして評価されると思われる。

今回のドイツでの調査は新史料の発見にも繋がり、これまでの日本側の史料に加え、ドイツ側の研究や一次史料を踏まえた研究を行うことができ、有意義であったとの報告を受けている。

ただ、実施の時期が、博士論文提出後であり、この調査の成果が盛り込めなかったこと、また博士論文の修正・改善のための指導の時間が半減し、十分な修正・改善の時間が取れなかったことは非常に遺憾であった。

時期的な面での配慮をお願いする次第である。

(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科・小風秀雅)

A fieldwork for research in the diplomacy and Trade relationships between Japan and Germany in the Meiji era

Hiroe Matsui

The aim of my fieldwork lay in deepen and revise especially my current research by visiting archives, libraries, and universities in Berlin, Hamburg, and Kiel in Germany and collecting further historical materials. My purpose was collecting new information and sources for my doctoral theses and my post-doctoral research. During my research in Germany I have been able to realize my plans and I to collect also new sources. Based on this experience, I will develop my research by usage of still more historical materials both in Japan and German.